

アトモスフィア

生化学の展示室を作ろう

三浦 謹一郎

本会名誉会員, 学習院大学

数年前に京都で会合があったとき、空きの時間ができたので、河原町御池通りから少し入ったところにある島津製作所の資料館に行ってみた。島津製作所が創業以来製作した種々の機械や装置が常設的に展示されていると聞いていたので、いつか訪ねてみようと思っていたからである。多種類の理化学実験機器がほぼ年代順に並べられていた。

生化学の実験で最もよく使われた分光光度計は戦後すぐにアメリカのベックマン社のものが入ってきたが、日本では島津製作所が早くから手掛けた製品が日立製作所の製品とともによく使用されていた。島津の初期のものとモデルチェンジした二代目のものは、私が大学院で生化学の分野に入ってから二十数年間はほとんど毎日使用していた機械だから大変つかしく眺め入ってしまった。ところで、分光光度計に限らず、最近の実験用機器はどれも箱の中に入っていて中がどうなっているのかよくわからずに、マニュアルに従ってプッシュボタンを押して、あるいはコンピューターで指示して使用するようになっているものが多いようで、機械の原理も理解しないまま使用することが多いようである。しかし、島津製作所の資料館にはそれぞれの機器の作動原理なども簡単ながら示されていて中高生や大学生にとっても参考になるように思われた。

ここを訪ねた年はちょうどドイツの Röntgen が X 線を発見して 100 年に当たる年だったので、関連の特別展示もあった。胸部疾患の診断用の X 線投影機は島津製作所にとってはドル箱だったのであろう。この装置も機械の原理や応用についての説明がつけられていて大変興味深かった。

アメリカの NIH で中心的な建物のビル 10 の 1 階には NIH が産み出した主要な研究業績に関する展示があり、それらに使用された機器も並べられている。中には NIH で製作された機械もあり、原理の説明もあった。ロンドンやパリやワシントンのサイエンス・ミュージアムでもそれぞれの国の輝かしい研究成果を中心に生化学関係の展示がかなりあるが、日本の科学博物館や各地の科学館や各大学の展示では生化学の展示は大変少ないように思われる。生化学の研究がどういう方法でどんな機器を使って進められたかを展示することは、生命科学がますます盛んになるであろう新世紀を迎える今、教育的にも、社会人の啓蒙のためにも価値があることだと思う。日本の中に 2~3 か所でもよいから、国公立の科学館などの中に生化学についてかなりまとまった展示ができるような場所を作ってもらうようにはできないものだろうか？ もちろん、古い機器だけでなく、現在の代表的な機器類などを含め、できれば簡単な実験も見せられるような工夫もあるとよいと思う。生化学会でも具体的な方法を考えていただけないだろうか？

なぜ今時そんなことを言うかという、よく使用されていた機器類も 60 年代ぐらいまでの古いものは捨てられてしまって日本中から失われてしまうことになりそうだからである。例えば、ほんの一例だが、東洋濾紙社製のヤジロベエ式フラクション・コレクターのようなものは日本の生化学にとっては大事な「文化遺産」だと思うからである。